

今夏は「原発なし」の経験をしたかったと心の底から残念に思っている。「原発なし」の状況になりつつあったとき、電力過不足を電力会社だけの責任にせず、国民レベルで対策を講じる活動が浸透しつつあった。数キロワット程度の蓄電池を準備する多くの組織・団体が見受けられつつあったが、原発再稼働決定により、この活動は急速に停滞してきた。もし原発なしで秋を迎えたならば、結論として、原発なしは無理であったという結論になったかもしれないし、なんとか工夫をすれば乗り越えられるという結論になったかもしれない。それがはっきりする。国民の意見を二分している推進派と反対派の意見を統合しやすくするだろう。私はそれを期待していた。しかし、もしその結論が後者になった場合、原発推進者の立場が成り立たなくなる可能性は大である。だからこそ意見が二分しているいまの時点での再稼働決定しか道は開けないと考えたのではないか。野田総理の説明からは無理を押し通していく姿しか見えなかったのは残念である。

以上